

新世界から



第4波と第5波の谷間を利用し、新世界を訪れた（撮影：渡辺和之、2021年7月21日）

阪南大学国際観光学部

渡辺ゼミ

新世界からのスタート

国際観光学部 教員 渡辺和之

2021年4月、今年も10人の新生（男子5名、女子5名）を迎えた。彼らを補佐する3年生のSA(Student Assistant)の2名と教員1名を加え、計13名で大学入門ゼミはスタートした。今年の1年生はみな関西出身で、奈良2人、和歌山1人、大阪7人である。

国際観光学部では、1年生の前期には、大阪フィールドワークとして、大阪市内を中心に日帰りでフィールドワークをすることになっている。これは、観光学の基礎を学ぶと同時に、同じゼミの学生同士で仲良くなり、大学生活に慣れることも目的としている。渡辺ゼミでは、たとえ1年生であろうと、計画はすべて自分たちで下調べをし、どこにゆきたいかを話し合い、決定することになっている。大学の学びとは、自分たちで関心あることを調べ、自分の研究テーマを深めてゆくものだからである。

とはいえ、昨年より続くコロナ禍である。第4波に伴う緊急事態宣言の発出で、対面授業は4月の第2週から遠隔授業となった。ただ、6月中旬になると、感染状況も落ち着き、語学の授業が対面に戻った段階で、ゼミも対面に戻した。フィールドワークについても、日帰りを条件に行けるようになった。

それで例によって、班に分かれて、それぞれゆきたい場所を調べてもらうことにした。当初、やはり土日の人混みは避けた方がよいとなり、ゼミの時間内に往復できる場所を考えることになった。この結果、長居の自然史博物館、大泉緑地の散策、松原市内の神社めぐりなどの案が出たが、新世界で串カツを食べようという意見が出て多数となった。新世界はおろか、通天閣に登ったことがない人が半数おり、見学しようとなった。

だが、大人数で食事をしてもよいのだろうか。大学に問い合わせた所、会食は駄目だが、フィールドワークの途中で、感染予防対策をして、密にならないように昼食を食べるだけなら問題ないとのことであった。じゃんじゃん横町の串カツ屋に13名で行ったら、店の中は密になるだろうと不安になったが、学生は新今宮駅周辺の昼間でもやっている広めの串カツ屋を見つけて予約をしていた。探せばあるものである。

7月21日水曜日、串カツ屋の店内は平日の昼間であるにも関わらず、われわれの他に数組の客がいるだけであった。学生たちは、興味深そうに新世界の街並みを眺めていた。北摂から来ている学生は、同じ大阪とは思えないほど何か雰囲気が違うと、楽しんでいた。

この所、通天閣を見るのは外出自粛を促す赤いネオンばかりだった。昼間の何も点灯していない通天閣の風景は、束の間の休日のようなだった。

通天閣だけじゃない「新世界」の隠れた良い場所

国際観光学部 1年 井上優芽

私達は7月21日に新世界へフィールドワークに行った。このレポートでは、当日に訪れた「大よし」と「ジャンジャン横丁」、「通天閣」の紹介をする。

1. 大よし

この写真は「串カツ 味の関所 大よし」という居酒屋で撮った。この店はJR新今宮駅から徒歩3分くらいの所の赤い建物の地下1階にある。

その店にはざるそばや丼、味噌カツ等の定食があり、多種類のメニューがある。私はその中から「にぎり盛合せ（梅にぎり）」と「串カツ」を注文した。

にぎり盛合せは8貫あり、「玉子、かんぱち、海老、まぐろ、タコ、帆立貝柱、トロサーモン、鯖」で、玉子以外の全てにワサビがついていて、串カツは「チーズ、ウインナー」を食べた。寿司は触感があり、新鮮味があった。串カツは熱々の状態で出され、チーズはトロトロでウインナーは肉汁が溢れ出てきて美味しかった。



写真1 にぎり盛合せ(梅にぎり) 撮影：井上優芽

2. ジャンジャン横丁

昼食後、この場所から「ジャンジャン横丁」という商店街を歩いて通天閣へ向かった。

商店街の中には多くの店舗が向かい合わせで並んでおり、ラーメン屋や立ち食いうどん屋、2・3段くらいの大きな机に多くの種類のお菓子が積まれている射撃場があった。他にも、少し小さなレトロな雰囲気のお店があった。覗いてみると、ゲームセンターでアーケードゲーム等のゲーム機が約5台あり、その店だけが昭和時代にタイムスリップしたみたいで不思議に感じた。

3. 通天閣

大阪のシンボルタワー「通天閣」へ向かった。5階に向かうエレベーターが動き出す瞬間、壮大な音楽が流れた。と同時に電気が消え天井に描かれた夜空の絵が現れ、細かな星や月が光りだした。



写真2 通天閣
撮影：井上優芽

ゆっくりとエレベーターが到着し、外に出ると、全て窓ガラスだった。北には道頓堀にあるえびすタワーや大阪城が見え、西には京セラドームがあった。大阪を360度見渡せることが出来て、絶景だ。その階には、足の裏を触るとご利益があると言われている有名な金色の「ビリケンさん」の像があった。

別途で料金を払うと、「展望パラダイス」という特別野外展望台に行くことが出来ることを知り、大学生料金300円を払い、友達2人で一緒に行ってみた。階段を上り、外に出ると、跳ね出し展望台という床が透明なガラスで作られていて、地上92.5メートルを上から見下ろすことが出来た。迫力やスリルを体感出来る所があり、特別な体験が出来た。



写真3 展望台パラダイス

撮影：井上優芽

4. まとめ

至る所に店があり、人や店で非常に賑わっていた。また、友達と新世界を初めて回って、これまで行ったことがない場所や飲食店へ訪れたいと興味が湧いた。

大阪らしさを感じる経験

国際観光学部 1 年 中尾優花

1. はじめに

私たちのゼミでは通天閣へフィールドワークに行った。大阪の代表的な観光スポットである通天閣に行き、昼食に大阪の有名な食べ物である串カツを食べた。本レポートでは今回のフィールドワークで経験したことを報告していく。

2. 準備

大学入門ゼミ前期の授業では、フィールドワークの計画を行い、実際に現地に行った。そのため時間をかけて、計画をした。まず、3つ班にわけ、そこから出た候補地のなかから1つを選ぶことになった。私たちの班は大泉緑地へ行く計画をたてた。最初はどこに行くのか、何をしたいのかがわからなくなり、発言がなく、話が一向に進まない状態が続いた。その後、「涼しく、近いところがいい」などの意見があり、大泉緑地に決定した。しかし、私たちの班で出した大泉緑地の案は選ばれず、2班の通天閣、串カツのコースとなった。

3. 現地での経験

当日、私たちが最初に向かったのは串カツのお店だった。「大よし」という広く大きい店だった。店の前には提灯が置いてあった。階段や飾りがとても日本らしい紅葉色のような色合いであり、日本の屋台を感じさせる雰囲気になっていた。観光客好みに作られているのだと感じた。私は寿司と串カツを食べた。到着が13時頃になっていたためか、おなががすいていたためか、とても美味しく食べることができた。そして、ゼミの人と少し仲良くなれた気がする。

昼食後、私たちは通天閣へと向かった。私は通天閣や新世界に行ったことがなかったので、新しい発見の連続だった。コロナ禍で自粛になっているためか、もしくは平日の昼間だったためか、観光地であるはずなのに人が少なく感じられた。そのためか、私はいろんな角度から街並みを楽しむことができた。その中でも特に印象に残っているのが「ビリケンさん」だった。お店の前や看板、像、木彫りなど、さまざまなビリケンさんが街中至る所にあふれていた。ビリケンさんが街のシンボルとして新世界を盛り上げていると、私は感じた。

通天閣にのぼり、大阪の風景が一望できた。展望台に行くまでにも100年ほど昔の大阪やジオラマなどのたくさんの展示があり、面白かった。まず、デザインが素敵で、とてもこだわりがあると感じた。例えばエレベーターの表示板が昔ながらの形になっていた。エレベーターの中の表示は通天閣の形になっており、途中照明が消され、天井にはビリケン

さんが出てくるような演出になっていた。その他にも、展望台には七福神の置物や飾りや、中国の神話に出てくる四神が天井にそれぞれ描かれていた。通天閣からもらったパンフレットによると、ここには商売繁盛、合格祈願、縁結びなどあらゆる願いをかなえてくれる「ビリケンさん」と七福神で最強の八福神として鎮座されているそうである。通天閣は景気を見るほかにもパワースポットとして宣伝していて、観光客を楽しませる工夫がなされていた。私が気づいただけでもこれだけのさまざまな内装のこだわりがあり、驚きの連続だった。そして、通天閣から見える大阪の景色も、天気恵まれ、とてもきれいだった。私はまだ大阪についての知識があまりない。あべのハルカスや京セラドームなどの有名なスポットぐらいしか知らなかったが、十分に楽しむことができた。



写真1 エレベーターの掲示板
撮影：中尾優花



写真2 エレベーター内の
表示板 撮影：中尾優花



写真3 八福神
撮影：中尾優花

4. おわりに

私は大阪の景色を見る機会があまりなかったため、とても貴重な体験ができた。新世界と通天閣を訪れ、大阪らしさを肌で感じ、体験できた。今度はじっくりと歴史や文化や、食にふれ、学びたい。

通天閣から見た大阪

国際観光学部 1年 田中美羽

1. はじめに

大学入門ゼミのフィールドワークで新世界に行き、お昼を食べてから通天閣に登った。お昼は串カツうどんを食べた。食べ放題のお店以外で串カツを食べたのが初めてだったので、とても美味しかった。

2. 通天閣での体験

私は通天閣に登ったのも初めてだった。上まではエレベーターで昇った。エレベーターの中では放送が流れたり、暗くなったりする演出があり、驚いた。天気が良かったため、展望台からは遠くまで見渡すことが出来た。奥のほうには海を見ることも出来た。見える景色のほとんどがビルなどの建物だったので、建物の多さを改めて実感した。近くに天王寺動物園があり、上からキリンを見つけることが出来た。普段は大きく見えるキリンも、上から見るととても小さく見えた。通天閣も十分高いが、そこから見てもあべのハルカスはとても高く、驚いた。

屋外展望台にも行った。一階上がったけど、室内の展望台よりもとても高く感じた。地上よりも太陽に近いせいか、少し外に出ただけだが、とても暑かった。屋外展望台には、跳ねだし展望台というのがあった。一部分だけ外側にはみ出ているところのことだ。その端は、床が透明になっていて、下が丸見えの状態になっている。安全なのは分かっているが、怖くて端まで行けなかった。

3. 終わりに

通天閣の中には、お土産などを買えるところがあった。今回は時間がなかったため、見ることが出来なかったが、とても楽しそうだった。新今宮の駅から通天閣に行くまでの商店街の中には、射的や昔ながらのゲームセンターなどがあった。とても楽しそうだったため、また今度行こうと思う。

通天閣の魅力

国際観光学部 1年 前垣内 紅見

7月21日に通天閣に行った。このレポートでは、そこでの体験について触れていく。

今回のフィールドワークで、初めて通天閣に行き、上まで登った。通天閣に行くまでの、商店街のような通りにもたくさんの店があり、機会があれば後日、個人的にゆっくり見て回りたいと感じた。通天閣がどのような建物なのかも知らない状態で行ったため、雷門のようなものを想像していたが、タワーであることに驚いた。

エレベーターに乗った際、動き出すとともに照明が消され、音楽と天井に宇宙の絵が描かれているという演出があった。急なことであったため驚いたが、ものすごく綺麗だった。景色だけでなく、エレベーターなどの移動時間も楽しませてくれる仕掛けがあった。飽きることなく上まで行くことができた。

通天閣の外観は大きく高い印象があった。しかし、登ってみるとそれほど高くなかった。私は高いところが苦手なため、不安ではあった。それでも、思い出作りのため、プラス料金を払い、頂上まで登った。風や振動で揺れ、少し恐怖を感じた。なので、遠くの景色を見ながら頂上を一周した。

建物は四階までありその上に頂上がある作りになっている。四階ではスタンプラリーやおみくじ、小さなゲームをすることができた。そこで、ゲームをしたら、参加賞でぬいぐるみももらえた。通天閣に来た思い出を作ることができた。四階からの景色はそれほど高くなく、近くにある動物園の動物たちを肉眼で見ることができるほどであった。

三階まで降りると、雰囲気がガラリと変わった。ミラーボールが回っていたり、洋楽の音楽がガンガンにかかっていた。エレベーターを待っている少しの時間も楽しむことができた。もう少し三階で過ごしたかったという思いが残った。

通天閣の中でも、出口に向かう通路がすごく印象に残っている。通路にはさまざまな撮影スポットや小さなゲーム、ぬいぐるみなどがあった。見ているだけで楽しい気持ちになれた。時間がなく、そこで写真を撮れなかったことが心残りになっている。その通路をもう一度ゆっくり通りたいため、時間がある日にもう一度通天閣に行こうと考えている。また、今回のフィールドワークでゼミの男女で距離が縮まり、以前より仲良くなることができたと感じている。このような機会があると、仲良くなりやすいため、ありがたかった。

通天閣内には、撮影スポットやお土産を買うところが多く、景色以外にも楽しむことができる場所が多かった。また、通天閣周辺にもたくさんのお店や人力車に乗ることができる場所があり、楽しく通ることができた。また行きたいと思える場所だった。

通天閣と新世界の観光

国際観光学部 1年 山口 有香

1.はじめに

7月21日(水)に大阪フィールドワークを行った。今回は1年生で初めてのフィールドワークとなった。事前に授業内で3つのグループに分かれてフィールドワークを行う場所を決めた。①大泉緑地の散策、②通天閣と新世界の観光、③博物館を中心とした長居公園の散策の意見が出た。このうち、②の通天閣と新世界が選ばれ、みなで訪れることになった。

2.大阪名物「串カツ」

新世界は、観光客に人気で、大阪名物のB級グルメである串カツ屋が多いことでも有名である。そして、新世界には、およそ40店舗近くの串カツ屋が立ち並んでいるという。その中でも、JR新大宮駅から徒歩3分の「味の関所 大よし」というお店に私たちは行った。そこで昼食をとり、串カツとお寿司をいただいた。大阪で串カツを食べるのは、私は初めてだった。本場の串カツは、とても絶品で美味しかった。店内も素敵で、居心地が良かった。

3.新世界の街並み

昼食後、通天閣へ行く途中に「ジャンジャン横丁(南陽通商店街)」があった。昭和の雰囲気漂っていて、趣のある建物や景色を観ることができた。全長約180メートルもある商店街で、約50店舗が軒を連ねていた。コロナ禍ではあったが、立ち飲み屋や食堂、囲碁将棋クラブなどが開いていた。地元住民が多く集っており、どこか懐かしさのある街並みだった。通天閣周辺になると、テレビで見ていた光景が目の前に広がった。新世界の象徴である老舗づぼらやの「巨大フグ提灯の看板」が有名であった。しかし、残念ながら、私たちが訪れた時には、すでに1920年創業の長い歴史に幕が下ろされたため、それを見ることはできなかった。とはいえ、他の飲食店にもお客が入っており、コロナ禍でも徐々に賑わいを取り戻しているようだった。

4.大阪のシンボル「通天閣」

メインの通天閣は、以前に一度訪れたことがある。この日は雲がほとんどない快晴で見晴らしがよく、大阪を一望することができた。ユニバーサル・スタジオ・ジャパンや京セラドーム大阪、天王寺動物園などの観光地や施設をはっきりと眺望することができた。そこでタイミングが良く、通天閣の外で命綱を付けて点検作業をしている方を目の当たりにした。通天閣を安全に登ることができるように命がけで作業をする姿に胸を打たれた。とても貴重な体験をしたと思った。

3.おわりに

このフィールドワークを通して、大阪は素晴らしい観光地だと感じた。新世界は、下町でとても落ち着いた雰囲気が漂っていた。私が街中を歩いていると、関西弁で話しているおばちゃんに話しかけられた。このようなことが味わえるのは、大阪ならではの感覚だ。そして、コロナ禍でも地元の方々が快く迎え入れてくださって、観光を楽しむことができた。そして、通天閣では滅多に見ることのできない体験し、観光することが楽しいと改めて実感した。コロナが終息したら、大阪だけでなく、遠いところへ旅行をしに行きたいと思った。



写真1 通天閣から見える景色、撮影:山口有香。

通天閣で学ぶ、災難を経て再建された歴史

国際観光学部 1年 樺山慶樹

まず、串カツ屋さんへ行った。串カツ屋さんでは、自分は紅しょうがを食べたことがなかったの注文した。その他にも、牛串・豚串・玉ねぎと言った定番のものを注文した。メインのご飯は天ぷら定食を頂いた。紅しょうがはすごく美味しく、くせになった。

串カツの後は、通天閣に登った。天王寺の方も見ることができ、すごく綺麗だった。自分はこれまで通天閣には登ったことがなく、勝手に低いというイメージを抱いていた。だが、実際登ってみると、なかなか眺めがよく楽しかった。通天閣の内部は意外と広く、平日だったにも関わらず、結構な人の観光客がいた。小さい子供からおじいちゃん、おばあちゃんまで幅が広く、やはり大阪の人気スポットだと改めて感じた。

通天閣の公式サイトによると、現在の通天閣は2代目であり、1956年に完成した。1代目は、1943年に映画館からの延焼火災により、焼け落ちてしまった。二代目通天閣はネオン広告を掲載し、地元名物として市民の間で広く認知されていたとのことである⁽¹⁾。このことも登ってみるまで知らずにいた。今まで私は作られた当時のものだと思っていた。

実際にフィールドワークにゆき、過去を知ることで、現代に残る物や再建された物の価値観や面白さを教えてくれることを、今回学んだ。現在あるものはずっと昔から今のようにあったわけではなく、いろいろな災難を経て、再生してここにあるのだと言うことがわかった。フィールドワークに行くことで、そうした歴史を知ることができ、面白いと感じた。また、コロナ化の中で友達と観光しながらフィールドワークすることが楽しく、仲良くなれたし、知らないことも知ることができた。このような機会を、増やして欲しいと、私は提案する。

今はコロナ禍ということもあり、対面や行動が難しい状況に置かれている。しかし、だからこそ、遠隔でもできることをやりつつ、実際に現地にゆくことで、また新しい知ることができたらなと考えた。初めてのフィールドワークは大満足だ。

注

(1) 資料館 | その他 | 通天閣 | 展望台・タワー | 大阪のおすすめ人気観光スポット(天王寺・あべの・新世界エリア) (tsutenkaku.co.jp) (参照日:2021年7月28日)

参考文献

資料館 | その他 | 通天閣 | 展望台・タワー | 大阪のおすすめ人気観光スポット(天王寺・あべの・新世界エリア) (tsutenkaku.co.jp) (参照日:2021年7月28日)



写真1 通天閣からの眺め 撮影：樺山慶樹。

通天閣の歴史とビリケン

国際観光学部 1 年 椎屋大貴

1、はじめに

私は、先日のフィールドワークで通天閣に行って通天閣の歴史について興味が沸いた。本レポートでは、通天閣の歴史について考察していく。

2、通天閣の歴史

通天閣を訪れて、いま私たちが見ている通天閣は二代目であるということを知った。帰ってから、通天閣の公式サイトを調べると、通天閣ができたのは明治 36 年（1903）だったとのことである。しかし、残念なことに昭和 18 年（1943）足元の映画館が炎上し、解体することとなったという。現在の 2 代目通天閣が再建されたのは、昭和 31 年（1956）初代が姿を消してから 13 年後のことである。通天閣が消えて寂しくなった新世界を復興しようとの地元の声をきっかけに、昭和 29 年（1954 年）に新世界町連合会により再建されたという¹⁾。つまり、通天閣が再建されて現在の二代目通天閣ができたのは、地元住民が力を合わせて頑張ったからだ。私たちが今、通天閣を見ることができるのはその人々のおかげなのである。

通天閣の展望台に登ると、ビリケンがいた。通天閣とどんな関わりがあるか気になり、帰ってから調べてみた。通天閣の公式サイトによると、ビリケンは通天閣の守り神だそうで、初代ビリケンは 1908 年、アメリカの女性芸術家フローレンス・プリッツが夢の中で見た神様をモデルに製作したそうだ。また、現在のビリケンは三代目で、2012 年に通天閣建設 100 周年を迎えたことを機に現在のビリケンに引き継がれたという。二代目のビリケンがいつからいたのかは書いてなかったが、おそらく二代目通天閣ができたときからなのだろう。ちなみに、ビリケンの足の裏をなでるとご利益があるという²⁾。

3、おわりに

以上の事から通天閣は非常に歴史ある建物で、地元の人々に愛されている建物ということやビリケンが通天閣が建設されてから 100 年以上も通天閣を守り続けていたとわかった。

注

1) 「通天閣公式ガイド」 <https://www.tsutenkaku.co.jp/other/shiryo.html>

2) 同上

参考文献

<https://www.tsutenkaku.co.jp/other/shiryo.html> （参照日：2021 年 7 月 28 日）

新世界の街並み

宮本一希

1. はじめに

私はゼミのフィールドワークで大阪の新世界に行った。このレポートでは新世界の街並みなどについて書いていこうと思う。

2. 新世界の街並み

新世界は大阪の南の方にあり、飲み屋が多い場所である。新世界は新今宮から歩いて5分くらいのところにある。新世界には通天閣とスパワールドがあり、通天閣に登ると新世界を一望することができ、疲れたらスパワールドで疲れをとることができる。また、新世界にはジャンジャン横丁や大きなフグの提灯などがある。しかし、大きなフグの提灯は去年くらいに撤去され、写真に載っていた風景をみることはできなかった。

ジャンジャン横丁は飲み屋さんが多い。ここは、はしご酒ができるようなところで、立ち飲みなどが素早くできる場所である。飲み屋さんが多く、串カツや焼き鳥、魚介を食べるところやピンボールを打つところなどがあつた。フィールドワークに行ったのは平日の昼間だったが、昼から飲んでいる人が多く、自分が行く前に想像していた感じだった。おそらく1000円もあればお腹いっぱい食べることができるものと思われる。ほとんどの飲み屋さんは立ち飲みが多く、寿司や串カツなどが多くあつた。歩いていると、土手焼きというものがあり、どのようなものか気になった。今度時間があるときに食べに行ってみようと思った。

スパワールドは世界の温泉が集まっており、温泉以外にもウォータースライダーなどのアトラクションが目玉の温室プールなどがある。スパワールドには世界のお風呂が集結している。世界のお風呂にはどのような種類のお風呂があるのかが気になった。

スパワールドから通天閣の方に歩いていくと、自分で魚を釣って食べる店があつた。どのような魚がいるのか、何種類ほどいるのか、どのような料理が出てくるのかが気になった。帰ってから調べてみると、ジャンボつり吉という店で、釣って楽しい、食べておいしいというのを売りにしていた。楽しみながら食事をするので、約15種類の魚が釣れるということがわかつた⁽¹⁾。このお店はとても気になったので、今度の休みに家族か友達と行ってみようと思う。

3. おわりに

新世界の周辺は自分の住んでいるところとは全然違い、別の国に行っている感じがした。飲み屋さん、ピンボールを打つところなどがとても新鮮に感じた。また行ってみたいなど思うところが多かつたので、友達などへ行こうと思った。

【参考文献】

(1)ジャンボ釣船つり吉 <https://tsuri-kichi.com>(閲覧日7月28日)。

串カツ屋と通天閣

国際観光学部 1 年 春名海斗

1. はじめに

7 月の中盤ぐらいに大学のフィールドワークで、新今宮駅近くの串カツ屋に食べに行った。その後、通天閣に登り、綺麗な景色を見た。

2. 串カツ屋

串カツ屋で 2000 円まで使っていいと言われた。余ったら勿体無いので、ステーキ御膳を食べた。肉がすごく柔らかく、野菜も盛り沢山で、すごく美味しかった。余ったお金で串カツを注文した。初めてしょうがの串カツを食べ、それも美味しかった。ソースをつけすぎて、辛かったのを覚えている。ステーキ御膳は、肉の中がまだ赤かった。結構いい肉を出してると思った。ライスもおいしかった。野菜もはいてましたが、嫌いな野菜があったのでいやでした。肉の上にニンニクが乗ってあったので、帰り口が臭かった。でも、一番うまかったのは味噌汁だ。昔ながらの味がした。串カツ盛り合わせがあったので、次はこれを食べたいと思う。

3. 通天閣

昼ご飯を食べてから、通天閣に行った。遠くから見ると小さいと思ったけど、下から見たら凄く大きかった。他国にも人気があるのだなと思った。僕は、初めてだったので、すごく楽しみだった。上まで登ると、いろんな建物が見えて、すごく綺麗だった。もう一個、上の階があったが、時間がなかったため、行くことができなかった。登った友達に聞くと、透明の足場があり、高いところから大阪の景色を見ることができるそうだ。近くに、天王寺動物園があり、鹿などが見えた。下に降りると、通天閣の歴史が書いてあり、すごくためにもなった。お土産屋などもあったので、観光スポットとしては素晴らしいと思う。昼の通天閣も良かったが、夜だと光などですごく綺麗だと思う。大ききでは東京タワーと変わらないので、大阪の人は、通天閣で良いと思う。展望台からの景色がすごく良かったので、また行きたい。

4. まとめ

天王寺付近は、串カツも有名で美味しく、通天閣もあり、景色が良く、行ってはないが天王寺動物園がある。次は、天王寺動物園にも行ってみたいと思う。すごく良い経験になったので、また行きたいし、他の人にもオススメしたいと思う。



図1 ステーキ御膳、撮影：春名海斗

小学生以来の新世界：懐かしくも、変わってもいた街並み

国際観光学部 1年 尾形航大

初回のフィールドワークでは、ゼミメンバーで大阪の新世界にあるご飯屋で食事をした。私自身、新世界に来るのは小学生の時に行ったことがあったが、串カツを食べた事はなかった。私は串カツ定食を食べる気持ちでその日望んでいたが、メニューのステーキ定食を目にし、心変わりしステーキ定食を注文した。久しぶりにした外食はとても美味しく、ものの15分で平らげてしまった。

食後はジャンジャン横丁を通り、初めて通った道にとっても驚かされた。なかでも最も印象に残ったのは将棋を指す店があった事だ。初対面の人と将棋をさす事でも驚いたが、コロナの世の中なのにマスクを付けずに将棋を打っていた事にはさらに驚いた。この様子では、コロナはなかなか終息しないであろうと感じた。

その後、通天閣に登り、前に登ったのは確か小学生の時である。数回登った記憶があり、とても懐かしく感じた。だが、時の流れで昔の記憶とは阿部のキューズモールやあべのハルカス、てんしばなどが出来ており、かなり天王寺の街並みが変わっており、懐かしさの反面、寂しさも感じた。



写真1 新世界の街並みと通天閣 撮影：尾形航大

SA として初めてのフィールドワーク

国際観光学部 3年 SA 中西崇也

1.はじめに

7月21日に1年生の大学入門ゼミで大阪FWを実施した。先月まで緊急事態宣言が発令されていたこともあり、延期されての実施であったが、無事対面で実施することができた。今回は3つの班に分かれ、大阪府内で行きたい場所をプレゼンテーションした。その結果、1班は大泉緑地、2班は新世界、3班は長居公園の意見が出た。最終的に2班の新世界の案が採用され、行くこととなった。SAになって初めてのFWだったこともあり、きちんとサポートできるか心配しながらの参加となった。

2.新世界はやっぱり串カツ！

新世界は、JR・南海新今宮駅北東に広がる繁華街であり、大阪の観光スポットの一つである。コロナ禍以前は訪日外国人旅行者を中心に人気の場所であったが、今回はまん延防止等重点措置が発令されていることもあり、観光客を見ることはなかった。新世界名物といえば串カツであり、元祖串かつだるまや横綱などの有名店も数多い。その中で私たちは串カツ味の関所大よしに訪れた。店内はグループ席が多く、新世界でよく見られる立ち席は設置されていなかった。串カツのメニューも豊富で、定番の串カツを始め、ハムカツ、うずら、もちなどがあり、串カツ以外にもざるそばやうどんなどのメニューも多かった。私はうどん・寿司セットを食べ、串カツは紅しょうが、ウインナーなどを注文し、皆で分けることとした。うどんはコシが強く、寿司はわさびが多く、少し辛かった。串カツはサクサクで美味しく、飽きのこない味であった。

3.大阪のエッフェル塔「通天閣」

昼ごはんを食べた後、大阪のシンボルである通天閣に訪れた。近くにあべのハルカスが完成したことにより、小さなタワーと思われがちであるが、眺めが良く天王寺動物園にいるキリンや泉佐野市にあるりんくうゲートタワービルも見えた。入場料は900円で、+300円を支払うと通天閣の最上部まで上がることができるが、高所恐怖症の私には恐怖でしかなかったため、上らなかった。展望台にはビリケン像以外にも七福神像があり、記念の御朱印帳も販売され、展望しながら霊場巡りも楽しむことができた。

4.最後に

今回の大阪FWは、1年生にとって初めてのFWであったが、私にとってもSAになって初めてのFWで、初めて尽くしのFWであった。1年生と仲良く楽しくできたことは良い思

い出作りの 1 つとなった。またコロナ禍において観光客が減少したが、地元の人々が新世界のお店でごはんを食べている光景を見て、現在の新世界は観光客ではなく、地元の人々が支えてゆくべきだと感じた。



写真1 うどん・寿司セット

おわりに

前期のレポートがまとまった。あまりレポートのことまで事前に考えずにフィールドワークの計画を立てたため、どの記事も串カツを食べて通天閣に登った記事になってしまった。この点も後期の課題である。読者の方々は似たような記事を何度も読まされ、さぞ辟易されたことだろう。最後までお読み頂いた方には、心より深く感謝を申し上げたい。

7月下旬、第5波がやってきた。大学でも、8月1日から日帰りで許可されていたフィールドワークは禁止となった。だが、9月に感染状況も落ち着くと、10月中旬からは語学の授業も対面で再開となり、フィールドワークも日帰りでなら許可されている。11月に入って、宿泊を伴う合宿も感染対策を伴う形で、解禁となった。後期の1年生のフィールドワークは11月中旬に京都に行くことになった。

第5波が終わり、大学も少しずつ日常が戻りつつある。語学やゼミも対面に戻り、南キャンパスにも学生の姿が見られるようになった。とはいえ、150人以上の授業は相変わらず遠隔授業だし、留学や海外旅行はまだしばらく先のようなようである。新学期になり、課題だ何だと休日も忙しくなった。

だが、せっかくの機会である。この所、感染状況も落ち着いているし、よい天気も続いている。出れる時には外へ出て、秋晴れの1日を満喫したい（渡辺和之）。

+++++

渡辺和之（編）『2021 度前期大学入門ゼミフィールドワーク報告書：新世界から』阪南大学国際観光学部渡辺研究室 2021 年 11 月 30 日発行

〒580-0033 大阪府松原市天美南 1-108-1 阪南大学国際観光学部

電話：072-332-1224 メール：watanabe@hannan-u.ac.jp URL <https://www.hannan-u.ac.jp/>

Kazuyuki Watanabe (ed.) 2021 From the 'Sinsekai' (New World): Students' Fieldwork Reports 2021. Osaka: Faculty of International Tourism, Hannan University.

Address: 1-108-1, Amami-Minami, Matsubara, Osaka, 580-0033, Japan.

E-mail: watanabe@hannan-u.ac.jp

+++++